

福岡県理学療法士(協)会 代議員立候補者

定 数 : 20 名

立候補者数 : 23 名



氏名 森田 正治

都道府県士会 福岡県

年齢 53

勤務先名称 国際医療福祉大学

協会・士会役員歴

平成7年4月～平成19年8月 日本理学療法士協会 理学療法学編集協力者
 平成11年4月～平成15年3月 福岡県理学療法士会 学術局研修部長
 平成15年4月～平成19年3月 福岡県理学療法士会 理事
 平成21年4月～現在 日本理学療法士協会 代議員(福岡県選出)
 平成23年4月～平成25年3月 福岡県理学療法士会 監事
 平成27年6月～現在 福岡県理学療法士会 内部監事

立候補の趣旨

福岡県理学療法士会での活動としては、平成3年以降、学術関係の部員や部長を経て、平成15年より2期にわたり学術局研修部担当理事として学術活動を推進してきました。また、平成23年より1期、再度、平成27年から現在に至るまで監事として県士会運営を支えてきています。一方、平成21年度から代議員として日本理学療法士協会に携わり9年目を迎えています。協会の会員数が11万人を超える規模となった組織の抱える問題を改めて直視すると今の理学療法士を取り巻く環境、特に制度面の問題において非常に厳しい現状にあり、協会自体に職域の防衛と拡大のための迅速な対応が求められていることを再認識しました。こうした問題は簡単に解決できるものではありませんが、変革を目指し全国の各都道府県士会の理学療法士が一丸となって着実かつ地道な活動を積み重ねていく必要があります。また、教育に携わる者として理学療法士の質向上のために現実的な卒前教育及び卒後教育の問題点の解決を図り、これまで以上に学術・教育的側面の支援に寄与していきたいと思っております。協会と県士会の橋渡しの役割を担うと同時に、県士会の代弁者として更なる行動力を発揮すべく代議員として立候補致します。皆様方のご支援をよろしく申し上げます。



氏名 永野 忍

都道府県士会 福岡県

年齢 42

勤務先名称 九州医療スポーツ専門学校

協会・士会役員歴

平成23年度 (公社) 日本理学療法士協会 代議員
 平成25年度 (公社) 福岡県理学療法士会 北九州支部 総務・財務担当部長
 平成27年度 (公社) 福岡県理学療法士会
 福岡県女性理学療法士の課題を考える委員会 委員長
 平成29年度 (公社) 福岡県理学療法士会 理事

立候補の趣旨

日本理学療法士協会(以下、協会)は、他の医療職種と比較して組織率の高い団体であり、その協会に所属する会員数は2017年に10万人を超えました。男女比においては、1970年頃は男性が約90%を占めていましたが、女性の社会進出の風潮もあって女性理学療法士の数が着実に増え現在では約60%が男性、約40%が女性といった状況にあります。(2017年3月現在 協会HPより)「理学療法白書2016年版(以下、白書)」によると理学療法士の就業継続の意志が高いことが伺えます。一方、2017年1月に福岡県理学療法士会(以下、福岡県士会)にて実施したアンケート調査では、約23%の福岡県士会会員が職場を変えるなどの経験をもっており、その理由として、男性は「スキルアップ」「業務内容や待遇への不満」が多く、「結婚」「育児」と回答したのは女性に多い傾向がありました。更に離職後の自宅会員の約90%が復職の意思をもっており、それに必要な要件としては、「業務内容」や「就労時間」等が多く、白書とほぼ同様の結果でした。これらより、就業継続の意志が高い会員が多いことがわかり、就業を継続できる環境の整備や様々な支援体制を充実させていくことの必要性が伺えます。私は子や家庭を持つ女性理学療法士の立場から、女性理学療法士の就労全般において平成23年度より約7年間代議員という立場からさまざまなことを発信して参りました。その間、所属する福岡県においては平成27年度「福岡県女性理学療法士の課題を考える委員会」が新設され委員長を務め、平成29年度には福岡県士会組織部内にワーク・ライフ・バランス部の設置に尽力して参りました。これまでの実績を基盤にしながら代議員に再度立候補し、女性だけでなく男性理学療法士の就業環境の関わる課題の発信に尽力し、その課題解決に向けて取り組みたいです。



氏名 日野 敏明

都道府県士会 福岡県

年齢 54

勤務先名称 済生会八幡総合病院

協会・士会役員歴

平成12年度～平成24年度	(社)福岡県理学療法士会	理事
平成25年度～平成29年度	(公社)福岡県理学療法士会	理事
平成29年度～	(公社)福岡県理学療法士会	監事
平成21年度～平成23年度	(社)日本理学療法士協会	代議員
平成24年度～	(公社)日本理学療法士協会	代議員

立候補の趣旨

わが国は医療費の高騰により破綻寸前となった医療保険制度を救済するために介護保険制度が2000年4月1日より介護保険法に基づき実施されています。

現在、認知症高齢者の増加が見込まれるわが国は、地域に生活する高齢者の住まい・医療・介護・予防・生活支援を一体的に提供するためのケアシステムを団塊の世代が75歳以上となる2025年をめぐりに実現を目指しています。重度の要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を人生の最後まで継続できるよう、各市町村の地方行政単位で地域別に異なる高齢者のニーズと医療・介護の実情を正確に把握し、豊かな老後生活に向けて、住民や医療・介護施設などと連携・協議し、地域の多様な主体を活用して高齢者を支援することが必須です。我々理学療法士は、リハビリテーション専門職の自覚を持ち、国民の皆様一人一人が生き生きとした地域社会の確立、安心できる地域での暮らしを目指す必要があります。また近年、生活習慣病や転倒の抑制などの予防理学療法、理学療法治療による速やかな症状の改善、自立した生活の獲得を我々理学療法(士)は必ず実現しなければなりません。今後も職能拡大を考慮するとこのシステムの動向は理学療法(士)にとって重要と考えています。これらの活動は協会と県士会がしっかりした連携を図っていき、情報を共有しなければうまくいかないことを痛感しています。このような状況の中、微力ではありますが、協会と県士会のパイプ役として尽力していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 松崎 哲治

都道府県士会 福岡県

年齢 50

勤務先名称 専門学校麻生リハビリテーション大学校

協会・士会役員歴

平成17年4月	社団法人 福岡県理学療法士会	福岡支部	福岡1地区地区部長	就任	
平成21年4月	社団法人 福岡県理学療法士会	福岡支部	支部長	就任	
平成23年	日本理学療法士協会	専門領域研究部会	神経理学療法研究部会	部員	就任
平成25年4月	公益社団法人 福岡県理学療法士会		理事	就任	
平成25年6月	公益社団法人 福岡県理学療法士会		理事	支部局長	就任
平成25年12月	日本理学療法士協会	日本神経理学療法学会	運営幹事	就任	
平成26年4月	日本理学療法士協会		代議員	就任	
平成27年6月	公益社団法人 福岡県理学療法士会		理事	社会局長	就任
			・地域包括ケアシステム推進委員会委員長	就任	
平成29年6月	公益社団法人 福岡県理学療法士会		理事	地域包括ケア推進局長	就任

立候補の趣旨

福岡県の活動としまして、長きに渡り運営委員としてかわり、その後地区部長・支部長・支部局長・社会局長を経て、現在、公益社団法人福岡県理学療法士会において理事として地域包括ケア推進局長を務めておりおります。

そして、5年前より日本理学療法士協会日本神経理学療法学会運営幹事にも就任し、第12回日本神経理学療法学会学術集会を福岡で学術集会長として開催し大盛況のもと終わることが出来ました。

そして、代議員も2期勤めております。

これらの経験を生かし今後も代議員として日本理学療法士協会に携わり、更なる理学療法の質の向上に努めてまいりたいと思ひ、立候補いたします。

よろしく願いいたします。



氏名 遠藤 正英

都道府県士会 福岡県

年齢 35

勤務先名称 桜十字福岡病院



氏名 村上 武士

都道府県士会 福岡県

年齢 46

勤務先名称 柳川リハビリテーション病院

協会・士会役員歴

日本理学療法士協会分科学会 運営幹事（日本支援工理学療法学会）
福岡県理学療法士会 理事
福岡県理学療法士会 表彰規定委員会委員
公益社団法人福岡県理学療法士会 生活環境支援 論文査読者
平成27、28年度福岡県理学療法士会学術 編纂委員会委員
平成27、28年度福岡県理学療法士会 学会部担当部長

協会・士会役員歴

平成15年度～平成20年度（社）福岡県理学療法士会 筑後支部 2地区 運営委員
平成21年度～現在 （社）（公社）福岡県理学療法士会 筑後支部 2地区部長
平成26年度～平成29年度 （公社）日本理学療法士協会 福岡県 代議員
平成29年度～現在 （公社）福岡県理学療法士会 筑後支部 代議員

立候補の趣旨

年々多くの理学療法士が誕生し、日本における理学療法士の役割は大きな岐路に立たされていると思います。日本理学療法士協会は理学療法士の今後の方向性を決め、理学療法士の存在価値を示していくためにとても重要な役割があると思います。そして日本理学療法士協会をより強く大きくするのは日本理学療法士協会会員一人一人の思いと声だと思っています。代議員は会員一人一人の思いと声を代弁する役割であると考えています。そのため少しでも会員の皆様の思いと声を拾い届けることにより今後の理学療法がより良い方向に進む事ができるようになればと思い立候補をさせて頂きました。

立候補の趣旨

会員の皆様、日頃から日本理学療法士協会の活動に、ご理解とご協力を頂き誠にありがとうございます。私は、村上武士と申します。私が、日本理学療法士協会代議員選挙において福岡県の代議員として立候補したのは、筑後支部2地区部長として福岡県理学療法士会の運営に関わっている中で、日頃から会員の皆様と接する機会も多く、色々なご意見やご提案をいただき、考えさせられ、こうした方がより良いのではないかという意見を、どうにかして伝えられないかと感じていたからです。

そして、平成26年度から29年度まで会員の皆様から代議員にいただき微力ながら自分なりの声を伝えてまいりました。特に、①専門領域の必須研修会および単位取得研修会の地方開催頻度の拡充、②地域格差が無い様にブロックごとに全領域が取得できる研修会の開催、③技術面と合わせて人事教育面の研修会の開催を訴え、そして担当支部・地区研修会では開催を行ってまいりました。合わせて今年度は④地域包括ケアシステムへの取組として地域単位での会員の皆様への啓発と連携を考えてゆきたいと思っています。

日本理学療法士協会は、変化しさらに発展して行く必要があります。そして一人でも多くの会員の方が、日本理学療法士協会とはどういうものであり、どこに向かって、どの様に考え進んでいるのかを理解していただき、積極的に活動に参加していただくことが重要であると考えます。その為には、参加しやすい環境づくり、参加しやすい研修会の充実、情報の発信、経験年数を超えた交流、施設の所属長間の交流、地道な啓発活動が重要だと考えます。

引き続き代議員として立候補し、筑後支部の会員の皆様の声、福岡県理学療法士会の会員の皆様の声の橋渡しとなり、より良い運営をめざし精進してまいりますので、是非とも応援をよろしくお願い致します。



氏名 高橋 博愛

都道府県士会 福岡県

年齢 44

勤務先名称 宗像水光会総合病院



氏名 上川 健悟

都道府県士会 福岡県

年齢 44

勤務先名称 北九州八幡東病院

協会・士会役員歴

平成27年	6月	公益社団法人福岡県理学療法士会 公益事業推進部 担当理事 就任
平成29年	6月	公益社団法人福岡県理学療法士会 社会局長 就任 現在に至る

立候補の趣旨

私は、平成27年より4年間、公益社団法人福岡県理学療法士会公益事業推進部担当理事、平成29年からは社会局長として当該部局の事業に携われさせて頂きました。その中で事業を円滑に進めるためには、会員諸氏、いわゆる「人」なくしては、県士会事業は成り立たないと思いました。また、この4年間の士会事業の中で延べ1000名を超える県士会員（人）より知識・アイデアを吸収させて頂きました。諸先輩方の地道な啓発の結果、理学療法（士）は、広く県民に理解され、生活に欠かせない存在となり、さらにステップアップした事業の推進が県民より求められると考えます。私は、5000名以上の会員数である福岡県理学療法士会で多くの県士会員（人）の意見、アイデアを具現化し国民の医療・福祉に貢献したいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。

協会・士会役員歴

平成16年4月～平成19年3月	福岡県理学療法士会	事務局総務部長
平成19年4月～平成25年3月	福岡県理学療法士会	事務局財務部長
平成25年4月～	福岡県理学療法士会	総務局財務部長
平成29年4月～	日本理学療法士協会	代議員

立候補の趣旨

日本理学療法士協会に20年以上所属し微力ではございますが福岡県理学療法士会の事務局所属部長職を任命され、皆様のご協力のもと15年たった現在も継続させて頂いております。物事を動かすには「継続は力なり」と考え、常に心も体も前向きに言動しております。

前回に引き続き今回も代議員に立候補させて頂きますが立候補の趣旨としましては、年々理学療法を取り巻く社会環境は厳しさを増すばかりと痛感しております。患者さまに良い理学療法を提供する事は当然ですが、国民の皆様及び国会（厚生労働省）にも上手な広報が必要と感じております。よって日本療法士協会が主体となり実りの多い研修会開催や認定療法士等に社会認知的付加価値を付けるためにも、組織内議員を有効利用する事が最重要課題であると考えております。ただし我々理学療法士は年次増加しているため力を結集し今後益々の発展を願う国会議員誕生で一喜一憂するだけでは無く、数十年先には大臣の職務を任せて頂ける力強い組織にするために、微力ではございますが尽力したいと思っておりますし、日本理学療法士協会執行部に会員の皆様を代表してしっかり伝えていきたいと思っております。

最後に皆様に理学療法士として「誇り」と「安心」を持って頂く事が、患者さまにとって幸と考えております。その為に会員皆様のご協力を頂きながら、今後も鋭意邁進して参りたいと思っております。以上、簡単ではございますが立候補の趣旨説明とさせて頂きます。ご支援ご協力の程、宜しく願い申し上げます。



氏名 玉利 誠

都道府県士会 福岡県

年齢 42

勤務先名称 福岡国際医療福祉学院

協会・士会役員歴

平成20年 第43回日本理学療法学会 準備委員
平成27年 第12回日本神経理学療法学会学術集会 準備委員長
平成29年 日本神経理学療法学会 運営幹事

立候補の趣旨

超高齢化社会に適応した新たな医療介護システムが求められる昨今、理学療法士がその一翼を担う専門職として社会的評価を得るためには、適用範囲が広く質の高い理学療法が必要であると思います。そしてそのためには、先人の功績に敬意を払いつつ、臨床現場における個々の経験知を科学に立脚した集合知へと発展させる必要があると考えます。若輩の身ではありますが、社会や理学療法の対象者のみならず、若き理学療法士の未来に向けた組織運営に尽力すべく立候補致しました。どうぞよろしく願い申し上げます。



氏名 西浦 健蔵

都道府県士会 福岡県

年齢 47

勤務先名称 甘木中央病院

協会・士会役員歴

(福岡県理学療法士会役員 略歴)
2005年4月 筑後1地区部長
2007年4月 筑後支部長
2009年4月 支部担当理事
2011年4月 支部担当理事
2013年6月 総務局長
2015年6月～ 会長(現在至る)

(日本理学療法士協会役員 略歴)
2014年6月～ 代議員(現在に至る)

立候補の趣旨

私はこの度、代議員に立候補させていただきました西浦健蔵です。現代リハビリテーション医療において、医療完結型から地域完結への変化の対応、健康寿命延伸に伴う複合的疾患に対する対応、ならびに医療介護の連携に対するマネジメントなど、理学療法士の社会的ニーズが多様化しています。理学療法士の環境ならびに教育の現状と課題に再度着目して、保健・医療・福祉分野における理学療法士のさらなる発展のため、理学療法士の社会的地位の向上ために、約13年間の福岡県理学療法士会役員の実験を活かし精一杯務めさせていただきますと考えております。どうぞ、よろしく願いいたします。



氏名 近藤 直樹

都道府県士会 福岡県

年齢 43

勤務先名称 北九州市立総合療育センター

協会・士会役員歴

平成19～20年度 (社)福岡県理学療法士会 北九州1地区部長
 平成20～24年度 (社)福岡県理学療法士会 北九州支部長
 平成25～26年度 (公社)福岡県理学療法士会 理事(支部担当、総務部担当)
 平成27年度～ (公社)福岡県理学療法士会 理事(事務局長)
 平成28年度～ (公社)日本理学療法士協会 代議員

立候補の趣旨

急速に進む高齢化社会に呼応して社会的要請のもと、地域包括ケアシステム構築に向けた動きはこれまで以上に加速し、それと同時に理学療法士に対する期待や役割について、国をはじめ各行政団体が注視しています。そのような情勢に我々理学療法士がどのように貢献していくのかがこれから問われ、そして、結果を残さなければ、理学療法士の未来への発展はありません。

そのためには、個人そして組織として学術的發展を成し得ていくことと合わせて、時代の要請に応えるべく、今後はこれまで以上に、国民へ貢献するための事業展開が早急に求められており、本会としてもその要請に答えていくことが責務であります。

そのためには、予防医学への対応、基礎科学の進歩とEBMに対する知識・技術の変革など、理学療法に求められる課題の解決を図っていくと同時に、よりの確にそして迅速に行政機関等との連携を取っていくことで、我々理学療法士の存在価値をアピールしていくことが重要となります。

現在、福岡県理学療法士会において事務局を担当させていただいておりますが、日本理学療法士協会と本会のパイプ役となり前述の内容を実現すべく、この度代議員に立候補いたしました。

これからも日本理学療法士協会ならびに福岡県理学療法士会の今後の進展と発展の一翼を担えるよう尽力する次第であります。

どうぞご支援のほどよろしくお願いいたします。



氏名 廣滋 恵一

都道府県士会 福岡県

年齢 45

勤務先名称 九州栄養福祉大学リハビリテーション学部

協会・士会役員歴

平成21年度～現在 福岡県理学療法士会 理事(現学術局長)
 平成26年度～現在 日本理学療法士協会 日本予防理学療法学会 運営幹事
 平成26年度～現在 日本理学療法士協会 代議員
 平成27年度～現在 福岡県理学療法士会 研究助成審査会 委員長
 平成27～28年度 福岡県理学療法士会 学術誌編集委員会 委員長
 平成27～28年度 福岡県理学療法士会 査読委員会 委員長
 平成27～28年度 福岡県理学療法士会 組織検討委員会 委員
 平成28年度 日本理学療法士協会 組織・規則等ワーキンググループ委員
 平成29年度～現在 福岡県理学療法士会 組織検討委員会 副委員長
 平成29年度～現在 日本理学療法士協会 臨床実習教育の手引作成執行委員会 委員

立候補の趣旨

代議員に立候補させていただきます廣滋 恵一(ひろしげ けいいち)と申します。

私は、福岡県理学療法士会の学術・教育活動を中心とした事業に尽力して参りました。また、日本理学療法士協会では、予防理学療法学会の活動のほかにも組織規程や臨床実習教育などの委員を務めさせていただいております。

理学療法の研究領域は疾病・障害に対する介入はもとより、これらの予防へと拡充し、理学療法士の視野の広がりや社会的ニーズの多様性を感じています。少子高齢社会のなかで、我々への期待や要請に迅速に応えるための教育活動の充実と報酬制度を確立させ、様々な対応力のある理学療法士を充足させる必要があると考えます。

5,766名(平成29年12月28日現在)の福岡県理学療法士会会員の声を協会へ響かせられるよう精一杯尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。



氏名 音地 亮

都道府県士会 福岡県

年齢 34

勤務先名称 福岡新水巻病院



氏名 山内 康太

都道府県士会 福岡県

年齢 35

勤務先名称 製鉄記念八幡病院

協会・士会役員歴

【日本理学療法士協会役員歴】

なし

【福岡県理学療法士会役員歴】

平成27年～28年：福岡県理学療法士協会 学会部部长

平成29年～現在：福岡県理学療法士協会 学会部理事

協会・士会役員歴

【協会】

平成28年 代議員

【士会】

平成21年 福岡県理学療法士会 北九州2地区運営委員

平成25年 福岡県理学療法士会 北九州2地区部長

平成29年 福岡県理学療法士会 理事（北九州支部担当）

立候補の趣旨

今年には診療報酬・介護報酬同時改定の年であり、2025年の地域包括ケアシステム構築に向けて、理学療法士業界の真価がさらに問われる時期に来ています。地域包括ケアシステム構築に向けて理学療法士が貢献できる場面は無限大にあり、県あるいは市町村が求める要求に応え、質の高いサービスを提供していくためには、客観的かつ、標準化された質の高い理学療法法の確立が急務であります。そのために「臨床」「教育」「研究」の3本柱を軸に理学療法の本質を高め、会員個々が自分自身を磨いていく必要があります。

現在、国あるいは地方自治体が推進しようとしている方向性を把握し、明確な行動に繋げていくことが求められています。県代表の代議員となることで、積極的に情報収集・情報発信し、自分の役割に責任を持ち、国や地方自治体の期待に応えるために精一杯活動していきたいと考えています。5000人を超える福岡県の会員の意見や要望を総会の場で反映すること、また協会の意見や方向性を会員と情報共有し活かしていくことが、代議員としての責務であります。そのことが県全体の発展に繋がって個々の理学療法士の質の向上に繋がるのではないかと考えます。福岡県の代表として、地域の精力的な活動の一端を担うために、誠に微力ながら一生懸命頑張る所存ですので、何卒宜しくお願いいたします。

立候補の趣旨

私は平成21年度より北九州2地区の運営委員・部長として県士会事業の企画・運営に携わって参りました。学術的な事業としては卒業教育・生涯学習の双方において、質・量ともに充実した研修会を企画して参りました。社会事業では行政と共同し、介護予防として体力測定会を行いました。また運営委員が参加者特性等を分析し、事業修正およびその過程を学会にて継続し報告することで事業の質の担保、人材育成を行ってきました。

しかし平成28年度から日本理学療法士協会代議員に就任させて頂き、この中で協会の方針と県士会事業の整合性が取れていないことを強く認識致しました。この問題点として事業が適切に見直されず、発展されていないことと会員の声が事業に反映されにくい環境にあることが考えられました。これらの改善のために平成29年度より理事として協会一県士会一会員における情報・目標共有および相互連携を強化し、事業の発展に取り組んでおりますが、改革はまだ不十分であり、課題が山積しています。

今後の課題に対し迅速に対応するため支部・地区の事業を運営する責任者として代議員に立候補致します。代議員となることで上部機関である協会の方針に基づき、会員、行政、地域住民の要望を反映させ、事業を発展させることが可能となります。県士会事業を通して会員の皆様から得た意見を協会の事業に反映されるよう努力いたします。また、協会と県士会の方針の整合性を確認し、事業の推進に尽力致します。

皆様方のご支援をお願い申し上げます。



氏名 脇坂 成重

都道府県士会 福岡県

年齢 34

勤務先名称 桜十字福岡病院

協会・士会役員歴

平成29年～ 福岡県理学療法士会 教育研修部部長

立候補の趣旨

この度、日本理学療法士協会代議員への立候補に先立ち、協会での活動や実績もない私のような者が立候補することは大変恐縮ではございますが、これを機会に協会活動を通して多くのことを勉強し、理学療法の発展ないしは社会貢献のために少しでもお役に立てればと思い、立候補させて頂きました。私は理学療法士として、急性期・回復期・生活期（デイケア・訪問リハビリ・老人保健施設・療養病院）と幅広い分野で理学療法士として働く機会を頂きました。その中で、理学療法士として社会に貢献出来ることはまだまだたくさんあると考えます。規定概念に捉われず、今のリハビリテーションや介護予防プログラムがベストだと思わず、常に、更に良いものを探求し、国民の皆様提供できるよう、臨床研究やボランティア活動に取り組んでおります。怪我や病気などにより日常生活や仕事などが困難となった方々の希望を1人でも多く叶えることができるような、また国民の皆様が1人でも多く、自分らしく生活が送れるような社会を目指し、一理学療法士として何が出来るかを考え、実行していく所存です。きれいごとに聞こえるかもしれませんが、私に出来ることを地道にコツコツと行っていきたいと思います。まだまだ無知で代議員に相応しくない者であると自負してはおりますが、当選しようが落選しようが日々努力を惜しまず、精進していく所存です。どうぞ宜しくお願い致します。



氏名 磯邊 恵理子

都道府県士会 福岡県

年齢 46

勤務先名称 自宅会員

協会・士会役員歴

平成17年～ 福岡県理学療法士会 北九州1地区 運営委員
平成19年～ 福岡県理学療法士会 事務局 福利厚生部部長
平成25年～ 福岡県理学療法士会 総務局（現：事務局） 組織部部長
平成26年度～ 福岡県理学療法士会 代議員

立候補の趣旨

私は、これまで介護領域における訪問リハビリテーション業務や、介護支援専門員としての業務を経験してきました。その際の経験から、対象者や他職種において理学療法士の認知度は十分ではなく、介護領域で活躍する理学療法士数がまだ不足していると感じていました。現在地域包括ケアシステムが整備されている中、理学療法士には介護予防や地域ケア会議への参画が求められており、多職種協働により対象者の生活をマネジメントしていく能力が必要になっています。今後、先の視点をもった理学療法士をさらに増やしていくために卒前卒後の教育体制整備による後進育成が必要であると思います。理学療法士が介護予防や地域ケア会議への参画を行うにあたって、対象者の生活機能を把握する能力やプレゼンテーション能力を卒前から養っていくことが重要です。また、卒後教育として理学療法士の質の向上のための研修のみならず、多職種協働が図れる体制作りも必要になってくると考えます。公益社団法人日本理学療法士協会（以下、協会）では、理学療法士を取り巻く環境の変化に対応するために、卒前教育として今後は職業倫理や予防理学療法、地域リハビリテーションについての意識強化を図っていくことなどが方針として出されています。また、臨床実習も拡充をするなど大きく変わろうとしてきています。協会の指針を踏まえながら、常に今の理学療法士に求められているものは何か考え、卒前卒後の教育体制の充実を図っていきたいと考えています。そして、2025年（平成37年）以降に予測される医療や介護の需要の増加に対し、社会貢献できる職能団体として、理学療法士の地域への積極的な参入を推し進めていきたく、代議員に立候補致します。どうぞよろしくお願い致します。



氏名 諫武 稔

都道府県士会 福岡県

年齢 47

勤務先名称 福岡青洲会病院



氏名 岩佐 聖彦

都道府県士会 福岡県

年齢 44

勤務先名称 久留米大学病院

協会・士会役員歴

平成6年度～平成12年度 福岡県理学療法士会福岡東地区運営委員
 平成13年度～平成15年度 福岡県理学療法士会福岡東地区部長
 平成19年度～平成20年度 福岡県理学療法士会福岡支部長
 平成23年度～平成26年度 福岡県理学療法士会理事（財務担当理事）
 平成27年度～平成28年度 公益社団法人福岡県理学療法士会理事（総務局長）
 平成29年度～ 公益社団法人福岡県理学療法士会理事
 （総務担当理事・財務担当理事）
 平成24年度～ 公益社団法人日本理学療法士協会代議員

立候補の趣旨

このたび代議員に立候補させていただきました諫武 稔（いさだけ ののる）と申します。近年、協会や県士会は大きく変化しつづけていますが、理学療法士の置かれている環境もめまぐるしく変化してきました。理学療法士の活躍する場は、予防の分野から病院・在宅など多方面に広がっています。多方面で働く理学療法士がそれぞれの分野でしっかりと自分自身のキャリアパスを認識し実現することができる環境を作っていく事が大切と考えております。私たちは、常に時代の流れを的確に把握し、時代に応じた理学療法士としての職域を柔軟に確立させていくことが重要であると考えます。このような状況の中で私が目指したいことは、様々な分野で働く理学療法士一人ひとりが、個々の目標を持ち、常に何事にもチャレンジし、個人の持つ可能性を最大限引き出せる仕組みと環境作りを実現させたいと考えています。自身の思い描いたキャリアアップを支援する体制をしっかり構築することで、結果として、理学療法士という仕事に対する職務満足が向上し、加えて理学療法そのものが永続的に発展し続けることができると考えています。私たちの仕事にはゴールはないと思います。常に、新人の時期から生涯にわたり、継続的に研鑽を積むことが必要です。理学療法士となったみなさんが仕事を楽しみ、やりがいを持ち続け、仕事ができるよう日々取り組んでまいります。宜しくお願いいたします。

協会・士会役員歴

2002年 福岡県理学療法士会専門領域推進部
 物理療法系委員（2008年度まで）
 2009年 福岡県理学療法士会筑後支部 支部長
 2011年 福岡県理学療法士会理事 広報部・福利厚生部担当
 2013年 公益社団法人福岡県理学療法士会理事 学術局 学会部担当
 2015年 公益社団法人福岡県理学療法士会理事 支部局長
 2014年 日本理学療法士会 代議員

立候補の趣旨

2002年より福岡県理学療法士会の運営に携わって16年になります。2011年度からは県士会理事をさせていただいております。福岡県理学療法士会も公益法人となり活動の重要性を日々感じております。いかに“理学療法士”という言葉を知ってもらうか。理学療法士として“公”な活動が重要と考えております。理学療法士は「生活の予後をみることが出来る職種」であり、日常生活に必要な動作を、医学的知識に基づく運動治療を行うことで“まちの元気”をささえることができる専門職であることをアピールしなければいけません。今までの地区運営委員・支部長、そしてこの7年間の理事としての経験を活かし、福岡県理学療法士会の会員の皆様の声を協会に届けていきたいと思っております。4年間代議員を経験させていただきましたが、さらなる努力をいたしたいと思っております。何卒、ご協力ご支援よろしくお願いたします。



氏名 河上 淳一

都道府県士会 福岡県

年齢 38

勤務先名称 済生会八幡総合病院



氏名 谷口 隆憲

都道府県士会 福岡県

年齢 35

勤務先名称 福岡国際医療福祉学院

協会・士会役員歴

平成20年6月～平成29年5月 福岡県理学療法士会 北九州2地区 学術運営委員
平成27年6月～平成29年5月 福岡県理学療法士会 北九州2地区 学術責任者
平成28年12月～現在 日本理学療法士協会 診療ガイドライン作成委員 肩関節障害 システマティックレビュー班 班長
平成29年6月～現在 福岡県理学療法士会 学術局 教育研修部 部長

立候補の趣旨

これからの超高齢化社会の中で医療も大きく変わろうとしています。特に地域包括システムや新しい職域の拡大などは今後の理学療法士にとっても重要な課題となると考えています。これらの課題の中、協会としては、単に臨床からの疑問や改善点を提示するだけでなく、学術的な側面で考えられた内容から提案や改善をしていかなければならないと思っています。本会の発展には多くの視点が必要で、れには組織力をもったデータを作る取り組みが必要と考えています。私は学術的な側面を考えながら微力ですが組織の質の向上が行えるように努力していきたいと思っています。

協会・士会役員歴

立候補の趣旨

私は運動器理学療法の臨床経験を経て、現在は養成校で理学療法教育に従事しております。臨床では患者に対して最良の理学療法を提供することに専念してまいりましたが、教職に就き、他分野の方々と関わる機会が増えるにつれて、組織運営の重要性を感じるようになりました。また、超高齢化社会を迎えるにあたり、医療・保健・福祉の仕組みが見直されている中で、理学療法士が社会的役割を果たすには、水準化された適切な理学療法と個々に応じた最適なりハビリテーションの提供が必要だと思っています。理学療法士とリハビリテーションを受ける方々にとってより良い環境にするために、微力ではありますが、本会の組織運営に尽力出来ればと思います。どうぞ宜しくお願い致します。



氏名 田中 創

都道府県士会 福岡県

年齢 39

勤務先名称 九州医療整形外科・内科 リハビリテーションクリニック

協会・士会役員歴

立候補の趣旨

2016年時点での日本理学療法士協会（以下、協会）の入会率は約90%、組織率は約80%です。特に、協会の組織率に関しては、他の医療職種と比較しても非常に高いのが特徴的であるといえます。また、本邦における協会の組織率は、世界理学療法連盟（WCPT）に加盟する諸外国と比較しても非常に高い傾向にあります。これは、理学療法士の就労環境や、諸外国との保険制度や診療システムの違いに依るところが大きいと考えられます。しかし、2000年時点の協会への入会率が約95%、組織率が約90%であったことを踏まえると、この10数年間で10%程度の「協会離れ」が起こっているのも事実です。

本協会は1966年に創立され、約52年が経過しました。その間に、教育制度の整備・充実化が図られ、多くの理学療法士が輩出されてきました。私自身もその恩恵を受けて、医療分野において臨床・教育・研究という側面から対象者と向き合う日々を過ごしています。このような環境で、理学療法士としての職務を全うできるのも、創立当初から協会の運営に携わってこられた先人の想いの上に成り立っているものであると感じています。

このように、時代とともに積み重ねられてきた歴史を継承しつつ、今後は時代の変化に対して柔軟な発想を汲み上げていく可変的な姿勢が「協会離れ」を加速させないためにも重要だろうと感じています。私自身が、諸先輩方の教えにより此の場に立たせていただく決意をしたように、多くの若い理学療法士にその魅力と可能性を伝えていく一翼を担いたいと考えています。そのためにも、会員の声を協会に届け、課題の解決、組織の発展に貢献できるよう行動していきたいと思っています。また、協会内で発信された情報の意味を咀嚼し、会員へと伝えることで、協会と会員相互の円滑な情報の共有・明示化に寄与していきたいと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



氏名 泉 清徳

都道府県士会 福岡県

年齢 48

勤務先名称 聖マリア病院

協会・士会役員歴

平成17～18年度（社）福岡県理学療法士会 社会局保険部部長
平成19～20年度（社）福岡県理学療法士会 社会局保険部担当理事
平成21～22年度（社）福岡県理学療法士会 社会局保険部担当理事
社会局調査資料部担当理事（兼務）
平成23～24年度（社）福岡県理学療法士会 社会局保険部担当理事
平成25～28年度（公社）福岡県理学療法士会 社会局職能部医療保険担当部長
平成26～29年度（公社）日本理学療法士協会代議員（福岡県）
平成29年度～（公社）福岡県理学療法士会代議員

立候補の趣旨

2018年度は医療・介護・障害者のトリプル改定という重要な年となります。2025年に向けて行われている医療提供体制の再構築を実施していく上で、今回の改定は大事な方向性をつける実質最後の同時改定と言ってもよいのではないかと考えます。前改定に導入されたアウトカム評価に見られるよう診療報酬の流れは「成果報酬」、「結果報酬」へと移行しています。つまり結果を出せる医療体制が求められているわけです。我々にとって「結果を出す」ということは、質の高い理学療法を提供していくことに他なりません。今や10万人を超える組織となった日本理学療法士協会、若い理学療法士に対する教育、人口構造や医療ニーズ等激しく変化する社会へ対応していくための柔軟で強い組織力が重要です。リハビリテーション医療、また地域の中で常に求められる職種として歩んでいく為に、我々は何を考へ行動しなければならないのでしょうか。現在の我々の生活を守るだけでなく、次世代の理学療法士のために皆さんと共に考へ、微力ながらそのお手伝いができればと考えています。



氏名 今村 純平

都道府県士会 福岡県

年齢 46

勤務先名称 久留米リハビリテーション病院

協会・士会役員歴

支部運営委員（筑後1地区）：平成20年4月～平成22年3月
学術局研修部部長：平成23年4月～平成25年3月
学術局教育部部長：平成27年4月～平成29年6月
地域包括ケア実務担当者（久留米市）：平成26年4月～平成29年6月
地域包括ケア推進委員：平成28年4月～平成29年3月
地域包括ケア推進部理事：平成29年6月～現在

立候補の趣旨

医療と介護を取り巻く環境は大きな転換期を迎えており、地域包括ケアシステムの構築が大きなテーマになっております。入院医療においては地域医療構想に基づく病床機能再編が求められており（県単位）、在宅ケアにおいては総合事業（市町村単位）への移行が目の前に迫り、これまでのような全国一律の仕組みから市町村独自の仕組み作りに移ってきます。このような社会情勢の中、リハビリテーションの質の評価を求める声は年々大きくなり、誰が提供しても同質のサービスが提供できるような安定性が求められています。地域包括ケアシステムにおいては、今まで以上に多職種協働が求められるため、理学療法の標準化は喫緊の課題と考えます。これらを実現するためには教育が重要であり、卒前・卒後教育に一貫性を持たせ、科学的な思考過程と手法を用いた実践能力を持つことが求められます。これらの教育課題については、義務教育がそうであるように、全国統一の教育基準が必要と考えます。反面、地域包括ケアシステムの主体は市町村です。これからの日本は、人口減少社会において75歳以上の人口が増加することが予測されています。その中で「介護予防」領域における理学療法士への期待は大きく、先進的な市町村では成果が出ており、多くの市町村がそれに追随することが予測されます。しかしながら、市町村の動きに対応できるような協会・県士会組織は未成熟であり、市町村に対応できる組織作りと会員教育が重要となります。地域包括ケアシステム構築に向けた人材育成と仕組み作りに向けた協会と県士会の橋渡しをしていきたいと考えます。